

# 地の境を越えて

西郷菊次郎と隆治、隆秀

—拓殖大学国際交流の命脈—

西郷隆盛

明治の元勳・西郷隆盛の子・西郷菊次郎とその子である隆治、隆秀兄弟は、本学と所縁の深い人物である。その「地の境」を越えた生涯の業績は、明治、大正、昭和、平成と拓殖大学が脈々と継承してきた国際交流の一つの原型を示したものと認められる。来る2020年の創立120周年を記念して、本学の所蔵する関連の史料(写真、文書等)をパネルにして展示し、広くその足跡を紹介する。なお、菊次郎と隆治に関する史料は、主に隆治の孫・諫山尚子様より本学へ寄贈されたものである。



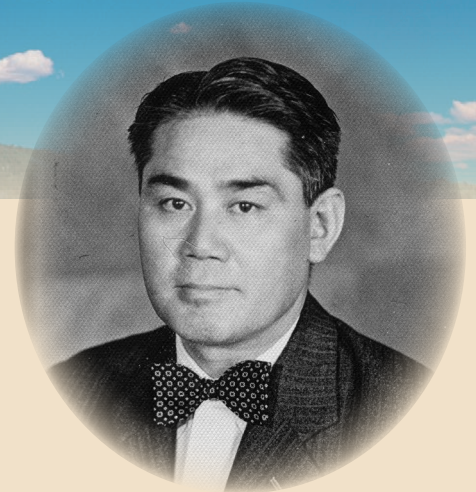
西郷隆治 (1899~1977)

1920年4月拓殖大学入学。父・菊次郎の命により1921年9月退学して農事研究のためブラジルに渡る。サンパウロを中心に日本人移住者子弟の柔道教育にも貢献した。帰国後は、終戦の年まで母校県立二中(現甲南高校)で武道教師を務めた。「体格雄偉で眉が濃く太く、眼裂の大きい目はけいけいとしてかがやきが強く」城山町にある西郷隆盛銅像のモデルではなかったかと、作家海音寺潮五郎は述べている。



西郷菊次郎 (1861~1928)

愛加那を母として奄美大島で出生。9歳のとき鹿児島県の西郷本家に引き取られる。農業技術習得のため13歳で渡米。1877年西南戦争に従軍(17歳)、片足を失う。1884年外務省に入り米国再留学。1895年領有草創期の台湾に渡り、1897年から宜蘭庁長。のち1904年より京都市長二期。1910年東洋協会(拓殖大学の経営母体)評議員となる。1912年島津家の山野鋳業館館長就任。(NHK大河ドラマ「西郷どん」では、西田敏行が演じている)



西郷隆秀 (1907~1985)

1925年4月拓殖大学入学、1931年3月卒業。1954年から拓殖大学評議員。1955年3月から1964年6月まで拓殖大学理事長を三期務めた。理事長推薦の辞に「春秋に富み、学内において信望厚く、且つ学外一般に対して顔も広く、将来本学の発展に尽力して頂くのに最適の人物」とある。矢部貞治総長との二人三脚で戦後の学園復興を進めた。八王子国際キャンパスに「西郷隆秀先生顕彰碑」が立つ。

## 展示場所・期間

■ 文京キャンパスE館1階 後藤新平・新渡戸稲造記念講堂脇ホワイエ

■ 平成30年11月20日(火)~平成31年1月31日(木) 9:00~17:00

日曜日、年末年始(平成30年12月25日~平成31年1月6日)と成人の日(平成31年1月14日)及びセンター試験期間(平成31年1月19、20日)は、お休み致します。

お問い合わせ先：拓殖大学創立百年史編纂室 TEL 03-3947-7140